平成30年7月豪雨を踏まえた
高梁川本川沿川4市長との意見交換会

（１） ハード・ソフトの取組状況
（２） 高梁川上流ダム群の取組状況
（３） その他

令和6年1月31日
国土交通省中国地方整備局

（１）ハード・ソフトの取組状況

国土交通省

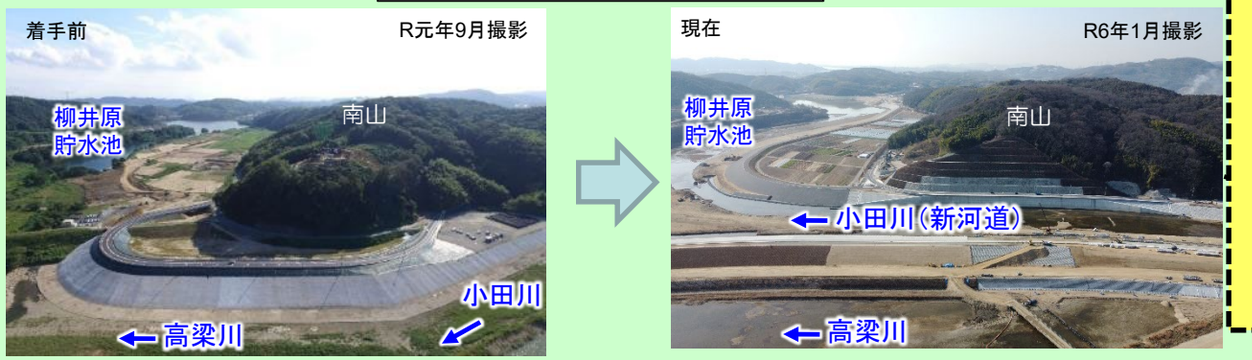
ハード対策の取り組み状況（高梁川水系）

国土交通省

①再度災害防止に向け国で実施する河川激甚災害対策特別緊急事業等の小田川合流点付替え事業については、令和5年10月29日に付替え後の新たな河道へ通水を開始し、現在、高梁川と小田川を分離する締切堤防の整備を実施中。令和5年度末完成予定。
②高梁川では「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」として河道掘削・樹木伐採、浸透対策、高潮耐震対策を実施し、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」として令和3年度からは堤防強化等のハード対策を実施中。

① 再度災害防止（河川激甚災害対策特別緊急事業等）

小田川合流点付替え事業の状況



事業内容
※事業の進捗については次頁

＜付替え事業＞	
南山掘削（河道掘削）	1式
築堤・河道整正	1式
橋梁	1箇所
＜小田川＞	
河道掘削	1式
堤防拡幅	1式
その他	1式

② 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策

川辺地区（倉敷市）の状況

鶴新田地区（倉敷市）の状況

③R3．8災害復旧工事

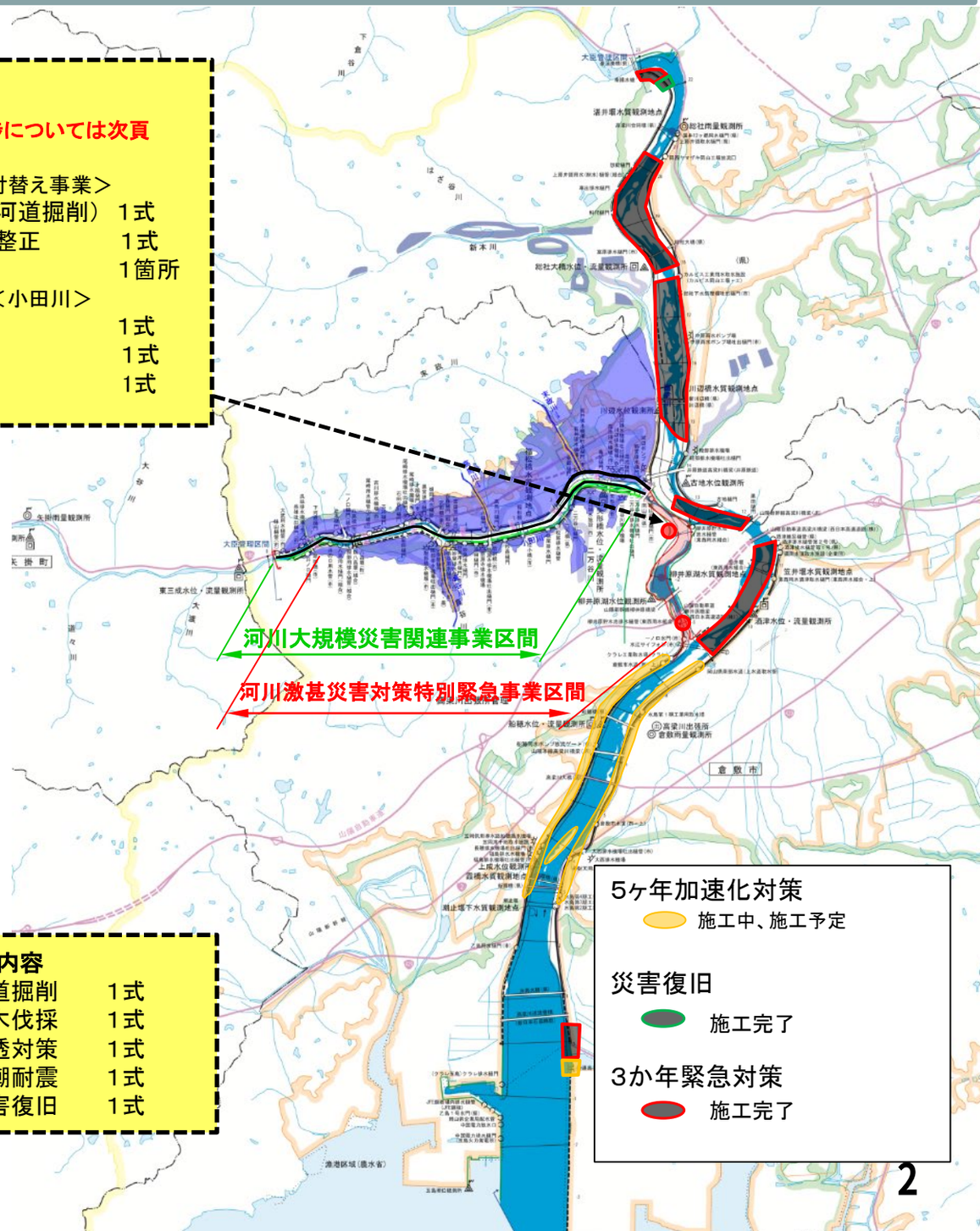
秦地区（総社市）の状況

④防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策

上成地区（倉敷市）の状況

事業内容

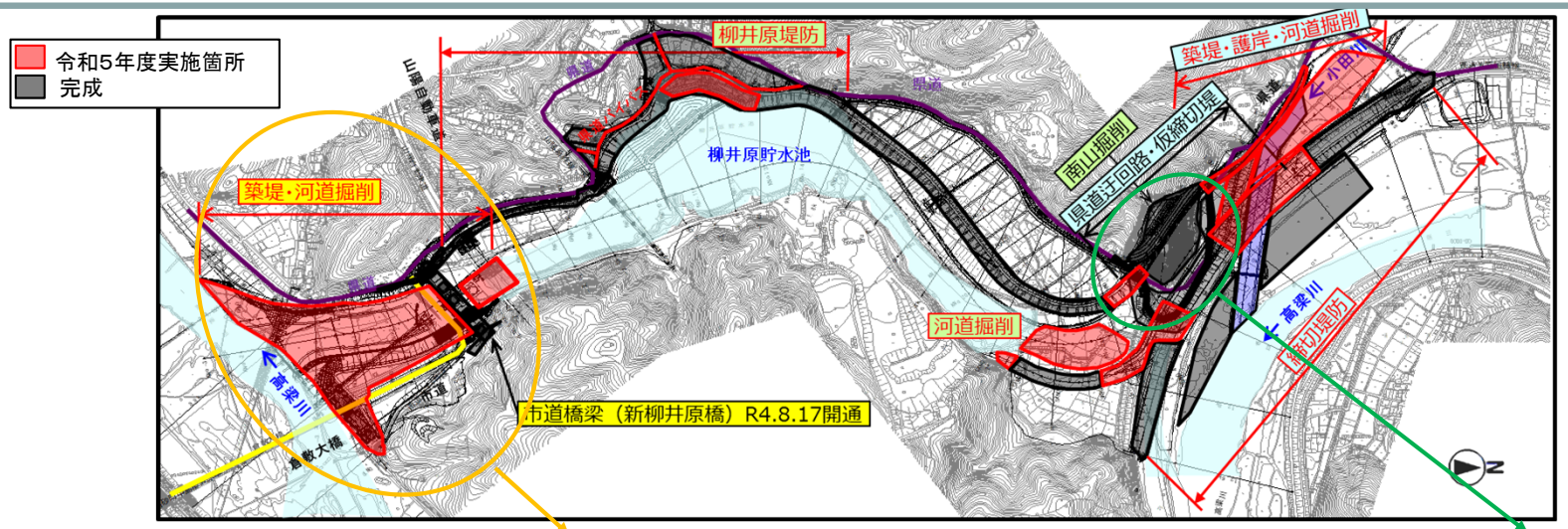
河道掘削	1式
樹木伐採	1式
浸透対策	1式
高潮耐震	1式
災害復旧	1式



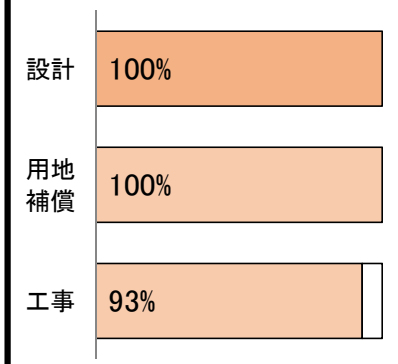
ハード対策の取り組み状況（小田川合流点付替え事業）

国土交通省

主な工事として小田川合流点付替え締切堤防、新合流点の掘削、貯水池締切堤防撤去を実施。



事業進捗率



令和6年1月18日時点

新合流点

【工事進捗】
令和4年度：新柳井原橋供用
令和5年度：河道掘削、築堤・護岸

【令和6年1月9日撮影】

河道掘削（南山掘削含む）

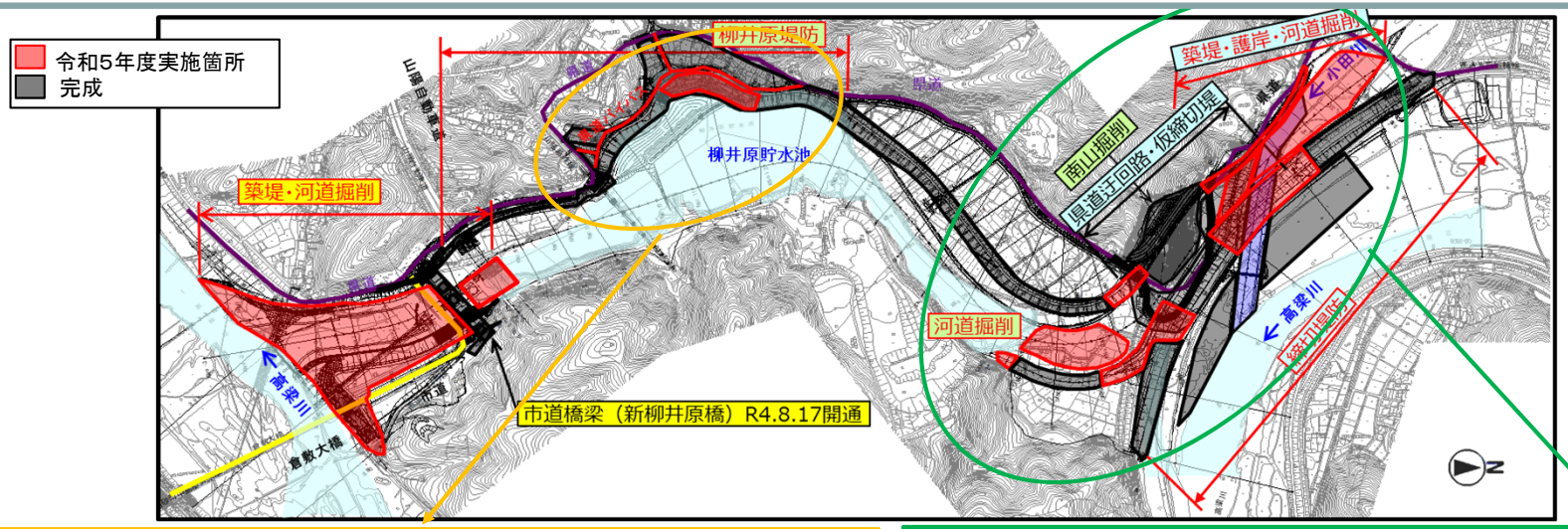
【工事進捗】
令和1年度：工事用道路を設置し山頂から掘削開始
令和2～4年度：南山の掘削完了
令和5年度：小田川（新河道）に通水。締切堤防の築堤・護岸

【令和6年1月9日撮影】

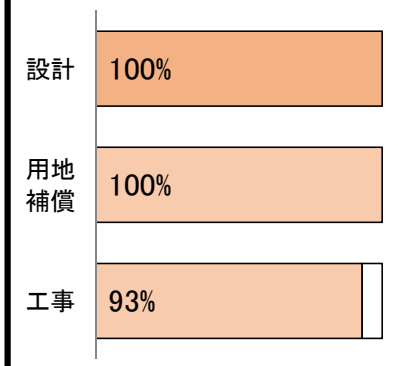
ハード対策の取り組み状況（小田川合流点付替え事業）

国土交通省

主な工事として小田川合流点付替え締切堤防、新合流点の掘削、貯水池締切堤防撤去を実施。



事業進捗率



令和6年1月18日時点

柳井原地区築堤

【工事予定】
令和2～4年度：築堤・護岸
令和5年度：親水堤防、県道B．P．整備（R5.12.25県道B.P.供用）

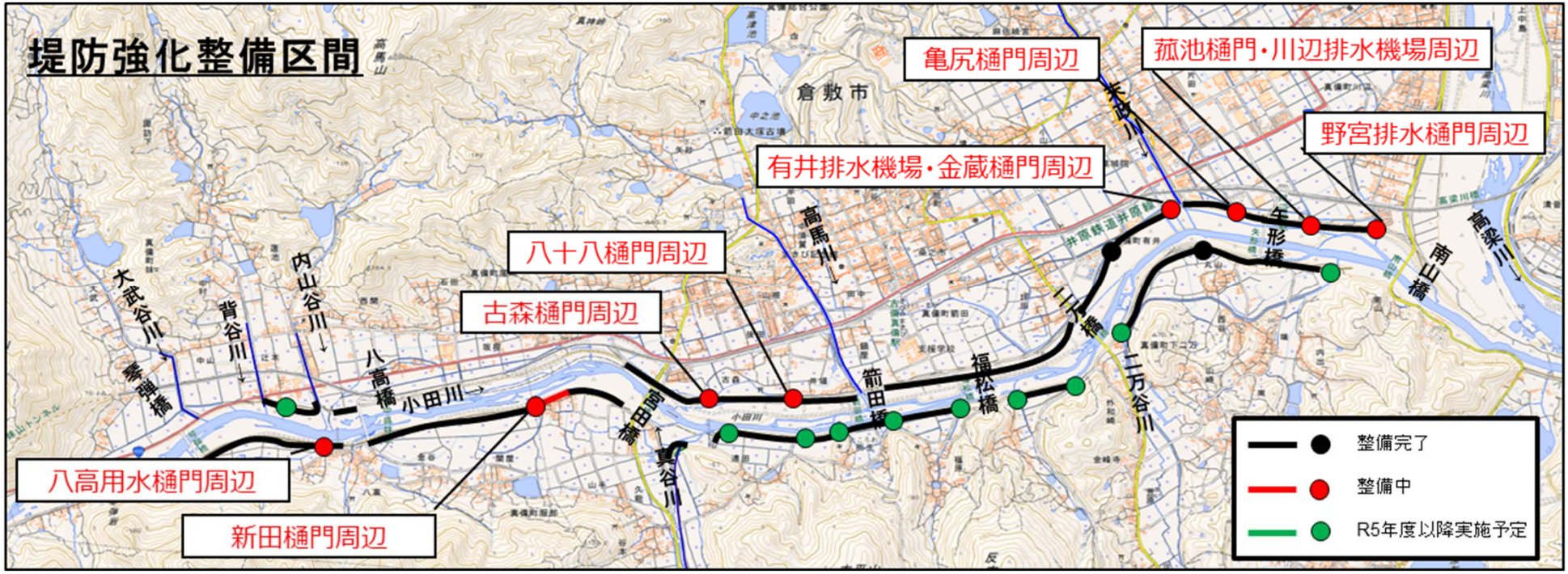
締切堤防下流部

【工事進捗】
令和1年度：上流部締切堤防に着手
令和2～5年度：締切堤防の築堤護岸を施工

小田川の堤防強化

国土交通省

□小田川等の河道掘削で発生する大量の土砂を有効活用し、国と倉敷市が連携・協力して堤防強化を実施
□令和4年3月に概成
□引き続き、施設管理者と連携して、堤防拡幅に伴い必要となる樋門・樋管の補強を行い堤防強化を実施



ハード対策の取り組み状況（高梁川・小田川合流点下流）

国土交通省

「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」として、令和3年度からは堤防強化等のハード対策を実施中。

堤防整備 （右岸）

船穂地区（倉敷市）の完成状況
護岸工

着手前
R3.9撮影

完成
R4.3撮影

船穂地区（倉敷市）の実施状況
ドレーン

ドレーンエ
R5.10撮影

ドレーンエ
R5.11撮影

堤防整備 （左岸）

酒津地区（倉敷市）の実施状況
盛土、護岸工

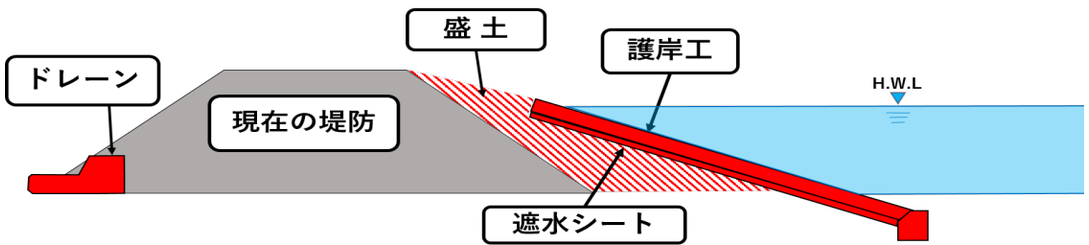
盛土
R5.4撮影

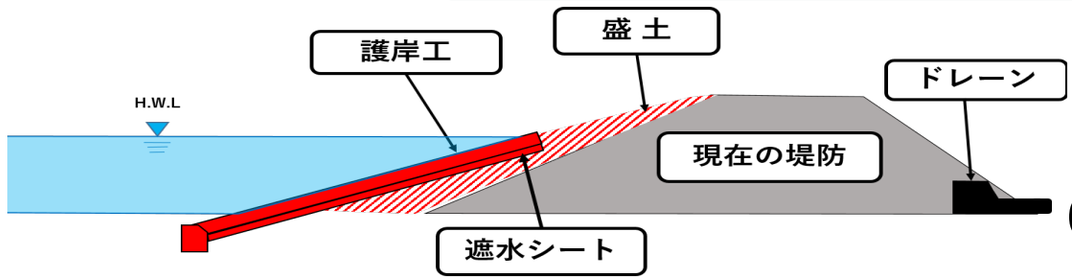
護岸工
R5.6撮影

巻倒地区（倉敷市）の完成状況
盛土、護岸工

着手前
R3.9撮影

完成
R4.3撮影



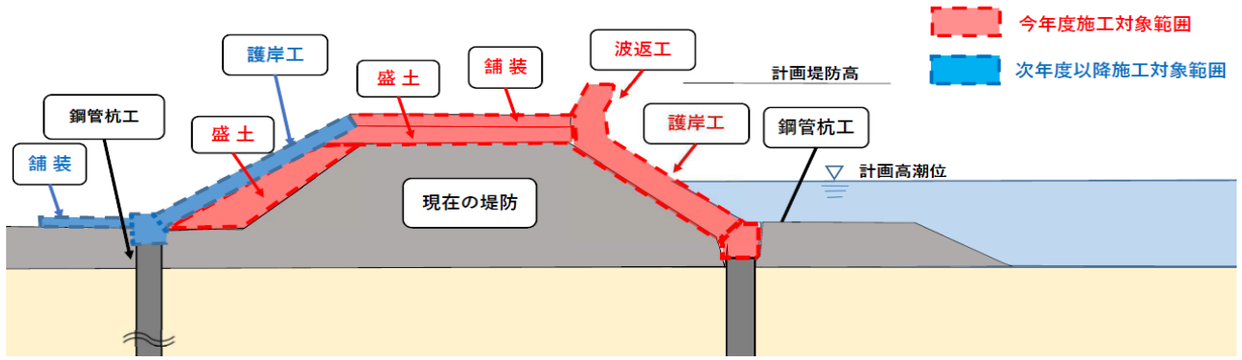


ハード対策の取り組み状況（鶴新田地区）

国土交通省

□「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」として、鶴新田地区において高潮耐震対策を実施中。

【　整備イメージ　】



対策前　令和5年4月末

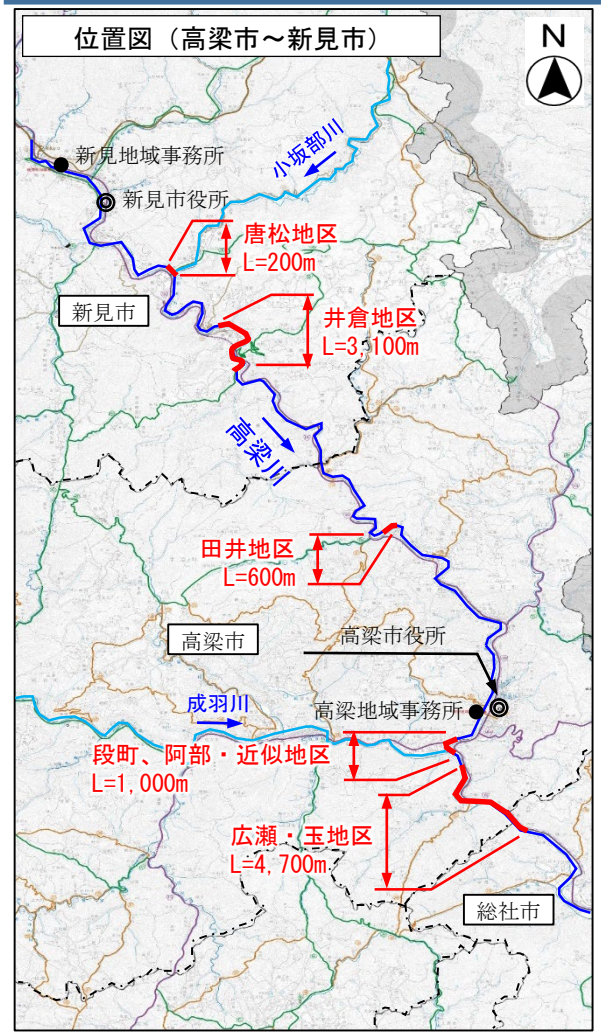
整備状況　令和5年12月末

整備状況　令和5年12月末

ハード対策の取り組み状況

岡山県

① 末政川・高馬川・真谷川は、堤防嵩上げ、橋梁架替えなどの河川激甚災害対策特別緊急（激特）事業が、令和５年度末完成予定。
② 高梁川は、総社市福谷から日羽において、堤防整備などの河川災害復旧等関連緊急（復緊）事業が、令和５年度末完成予定。
総社市日羽から下倉において、浸水対策重点地域緊急（浸水重点）事業により、堤防整備、河道掘削、用地買収などを実施中。
高梁市広瀬から新見市唐松において、令和６年度から堤防整備、河道掘削などの河川改修に着手予定。
③ 高梁川の県管理区間およびその支川では、「防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策」、「河道内整備事業」等を活用し、洪水時の水位を下げるための河道掘削、樹木伐採を大規模かつ集中的に実施中。



再度災害防止（激特）

末政川（倉敷市真備町有井）

高馬川（倉敷市真備町箭田）

再度災害防止（復緊）

高梁川（総社市日羽）

真谷川（倉敷市真備町服部）

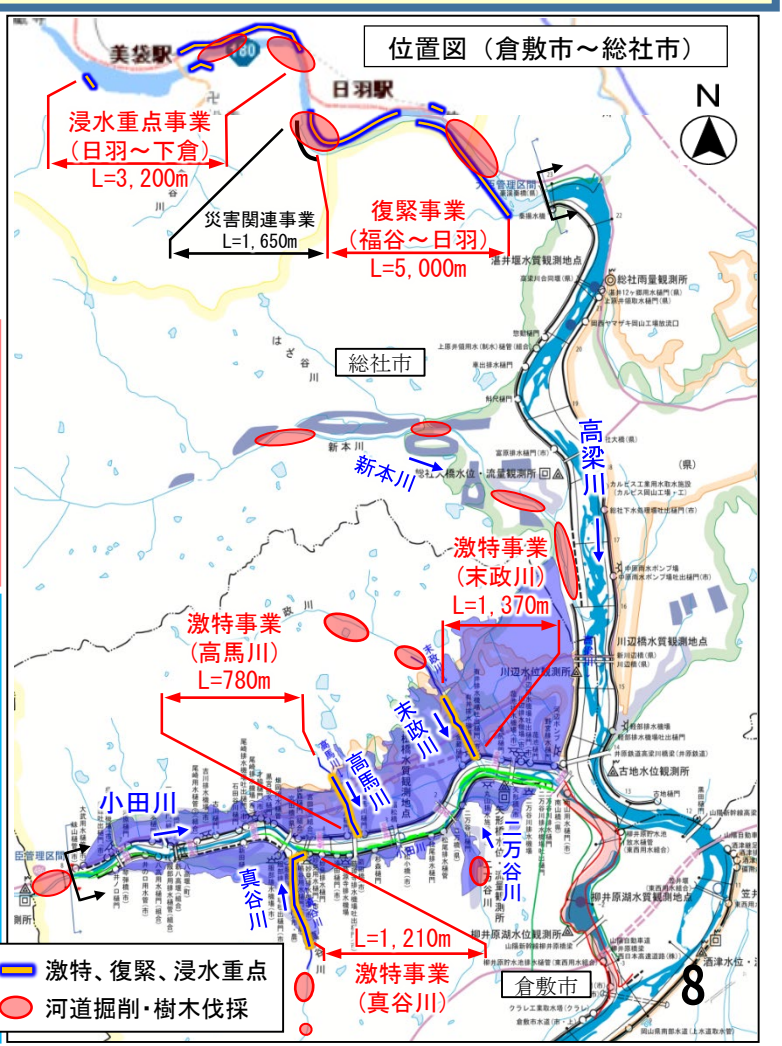
河道掘削・樹木伐採

河道掘削（新見市新見）

河道掘削（高梁市落合町近似）

高梁川（県区間）及び支川

- 河道掘削　V=約106万m3
- 樹木伐採　A=約　77万m2
- 27河川、232箇所



ソフト対策の取り組み状況（真備地区等における主な取り組み）

「真備緊急治水対策プロジェクト」に基づき、国、岡山県、倉敷市の具体的な役割分担や実施時期等を定めた『真備地区アクションプラン』を踏まえ、各施策を推進中
これまでの主な取り組みは以下の通り

① **逃げ遅れゼロに向けた取り組み**
- ■ マイ・タイムラインの出前講座を真備地区等の小・中学校及び公民館などで実施（R5実績　7回）
- ■ 福祉事業所や民生委員、社会福祉協議会等と連携し、要配慮者の避難を地域で実施する地域連携型要配慮者マイ・タイムラインを推進、作成ヒント集を公表
- ■ 地域連携型要配慮者マイ・タイムラインの普及・促進のため、要配慮者本人・家族、地域住民、福祉関係者などが繋がっていくまでを描いた動画「～地域をつなぐ～要配慮者マイ・タイムライン」を制作し、完成試写会（R5.5）やDVD（500部）の配付、事務所YouTube等で配信

② **その他の取り組み**
- ■ 地域住民と連携して、住民参加型の河川管理について検討（マレットゴルフ、活用頻度の違いによる植生状況調査など）
- ■ 工事現場動画を事務所YouTubeチャンネルで配信
- ■ 真備町で被災された方の実体験をベースにした漫画「僕に出来ること～大切な人を守るための要配慮者マイ・タイムライン～」を作成
  倉敷市内の公立小中学校での防災学習に活用（R4.5）
- ■ 地元大学生が被災した真備町の復興を応援するため、真備町内の店舗を取材し、描いた「真備復興漫画」を刊行（R4.7）

■逃げ遅れゼロに向けた取り組み

● マイ・タイムライン（要配慮者マイ・タイムライン）作成の促進

地域の逃げ遅れゼロを達成するため、「いつ」「どこに」「誰と」「どのように」避難するか決めるマイ・タイムライン及び要配慮者（高齢者・障害者など避難に支援が必要な方）マイ・タイムライン作成の取り組みを推進

➢ 地元住民の方も出演していただき、要配慮者マイ・タイムラインを作成に向け地域が繋がっていくまでを描いた動画を作成、YouTubeで配信

YouTube画面

➢ 流域の小・中学校、公民館等にてマイ・タイムライン出前講座を実施

真備町公民館薗分館

出演された地域の方々を招いて完成試写会を実施

倉敷市豊洲小学校

■その他の取り組み

● 地域連携 河川管理

➢ 草刈りの頻度や、転圧の違いによる植生の変遷調査
（箭田地区まちづくり推進協議会（河川協力団体））

● 工事現場動画（事務所YouTube）

● 「僕に出来ること～大切な人とを守るための要配慮者マイ・タイムライン～」

令和5年度吉井川・旭川・高梁川水害タイムライン振返り検討会を開催

国土交通省

○令和5年12月15日に令和5年度吉井川・旭川・高梁川水害タイムライン検討会を開催。（タイムラインに関係する26機関が参加）
○振返り検討会では、タイムラインの運用状況、台風第7号による被害状況等を確認するとともに、タイムライン改善に向けた防災行動上の課題や各機関における連携課題について意見交換を実施。

＜タイムライン参加機関における連携課題抽出＞

➢ 事務局で作成したテーマに沿った状況付与に基づきタイムライン参加機関で防災行動の流れを確認し、防災行動の漏れや連携内容・課題を抽出

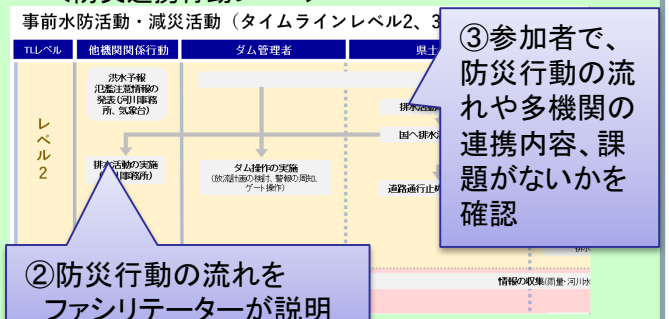
＜各グループの主な意見＞

テーマ	主な意見
A:住民避難	• 夜間に水害が発生した場合の避難情報の発令判断に課題がある。 • 様々な手段で避難情報を周知するが、住民に伝わらない場合がある。（地域住民、報道との連携が必要） • 避難の必要性が住民に伝わらず、避難情報を周知しても、避難に繋がらない場合がある。 • 避難所の不足を解消するために、民間施設も含めた新たに避難所の指定を行う必要がある。 • 広域避難に関する協議を行う必要がある。
B:事前水防災活動、減災活動	• 事前放流の判断は、独自の予測・判断を行っているが、気象台が発信している防災情報mailの雨量予測が参考になる。 • 地下街は複数の事業者がいるため、水防活動開始のタイミングを合わせる必要があり、現在、関係者間で協議中である。 • 内水発生や通行止め情報は、県の防災情報ポータルにて確認・収集し、復旧作業のルート検討を行っている。

＜状況付与＞

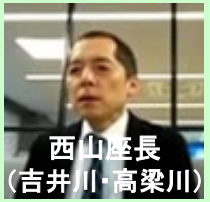
①状況付与（情報・状況）をファシリテーターが説明

＜防災連携行動フロー＞



②防災行動の流れをファシリテーターが説明

③参加者で、防災行動の流れや多機関の連携内容、課題がないかを確認



被害が大きくなる瞬間は、対応の判断に迷った瞬間である。一瞬の判断が被害の状況を変えてしまうため、迷った場合は、その原因が何なのかを分析して、来年度の出水期に備えてほしい。（西山座長）

西日本豪雨から5年が経過し、防災への意識が薄れつつある。是非、住民の生命を守る観点から住民にハザードマップの重要性を周知していただきたい。繰り返しになるが自治体版タイムラインの作成も進めていただきたい。（前野アドバイザー）

【参加機関】
岡山市、真庭市、新庄村、美咲町、倉敷市、井原市、高梁市、浅口市、矢掛町、津山市、備前市、赤磐市、勝央町、奈義町、岡山県警察本部、岡山地方気象台、中国電力㈱、西日本電信電話㈱、岡山ガス㈱、山陽SC開発、テレビせとうち、岡山県、中国四国農政局、岡山河川事務所
【オブザーバー】玉野市、広島県

26機関

高梁川水系高梁川・小田川洪水浸水想定区域図の見直し

国土交通省

〇本年３月に予定している小田川合流点付替え事業の完了に伴い、河川整備が進捗し河川の形状が大きく変化することから現在、高梁川・小田川の国管理区間での洪水浸水想定区域図の見直しを実施中。
〇今後の関係機関協議を踏まえ、事業完了に合わせ、令和６年度出水期までに新たな洪水浸水想定区域図を公表予定。

洪水浸水想定区域図見直しの経緯

- 高梁川水系では小田川合流点付替え事業を令和5年度末（2023年度末）完成に向けて実施中。
- 事業完了に伴い、河川整備が進捗し河川の形状が大きく変化することから、洪水浸水想定区域の大幅な変更が見込まれる。

- 洪水浸水想定区域の見直しは、一般的に以下の場合に行う。
  ① 洪水調節施設、放水路、堤防等の整備等河川整備の進捗により洪水浸水想定区域の大幅な変更が見込まれる場合
  ② 想定最大規模降雨の見直しにより洪水浸水想定区域の大幅な変更が見込まれる場合
  ③ 土地利用の大規模な変更、大規模構造物の建設、連続盛土の建設・改変、地形の大規模な改変等により洪水浸水想定区域の大幅な変更が見込まれる場合
  ④ 技術の進歩等に伴う地形測量や氾濫解析の精度向上により、洪水浸水想定区域の変更が必要と判断される場合

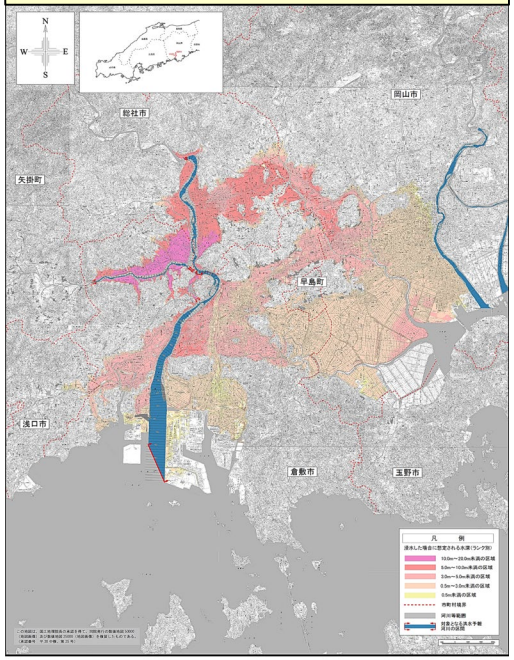
  など

} 該当

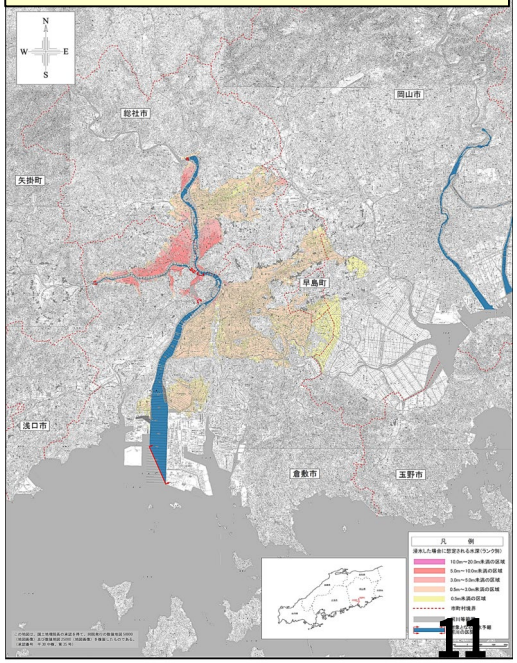
現在公表している「洪水浸水想定区域図」

- 洪水浸水想定区域図とは、想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域として指定し、浸水した場合に想定される水深、浸水継続時間等と併せて公表するもの。
- 現在公表している洪水浸水想定区域図は、以下の条件で作成。
  ・平成28年度末時点の河川整備を反映
  ・Ｌ２（高梁川流域総雨量674mm/48時間、小田川流域総雨量888mm/48時間）
  ・Ｌ１（高梁川流域総雨量248mm/2日間、小田川流域総雨量225mm/2日間）

高梁川水系高梁川・小田川洪水浸水想定区域図
想定最大規模（L2）総括版
令和2年3月30日公表



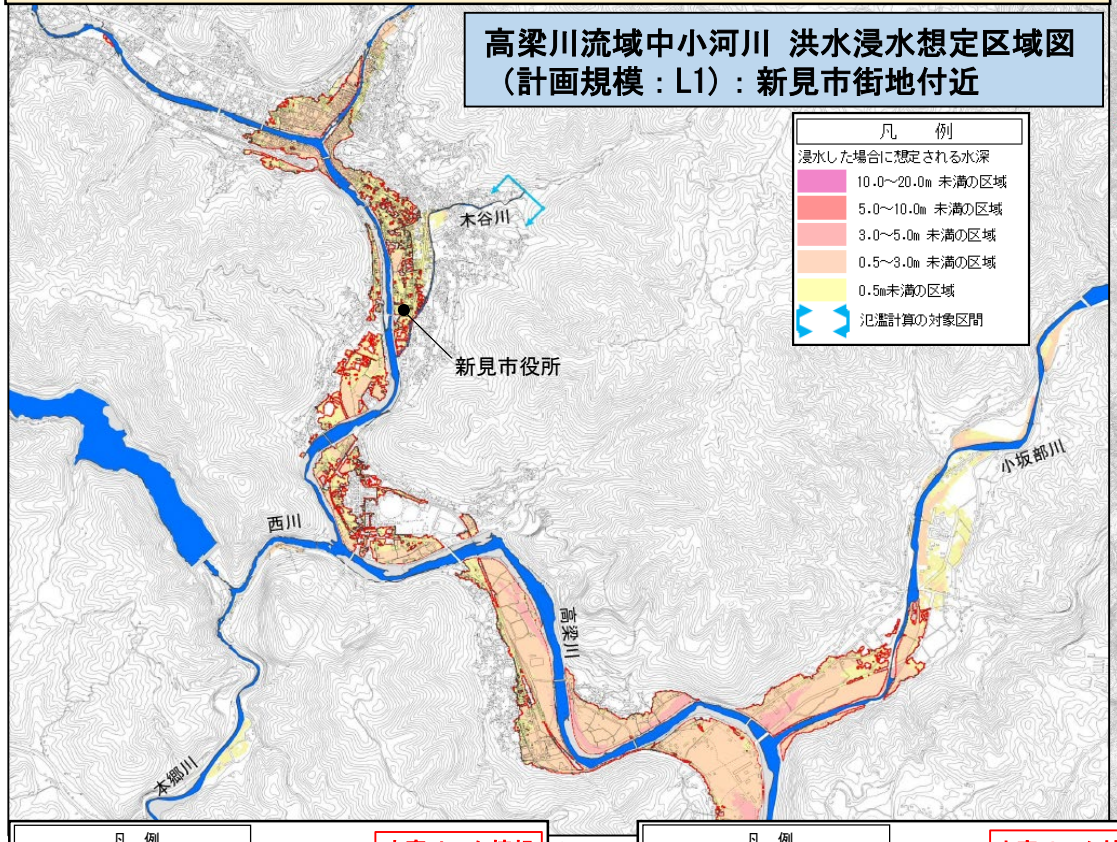
高梁川水系高梁川・小田川洪水浸水想定区域図
計画規模（L1）総括版
令和2年3月30日公表

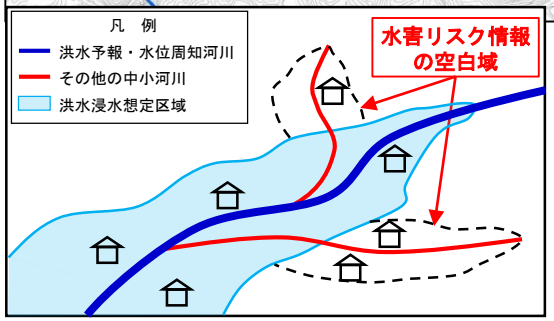


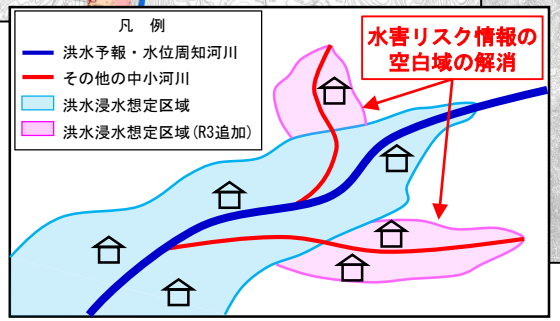
高梁川流域の中小河川における洪水浸水想定区域図の作成・公表

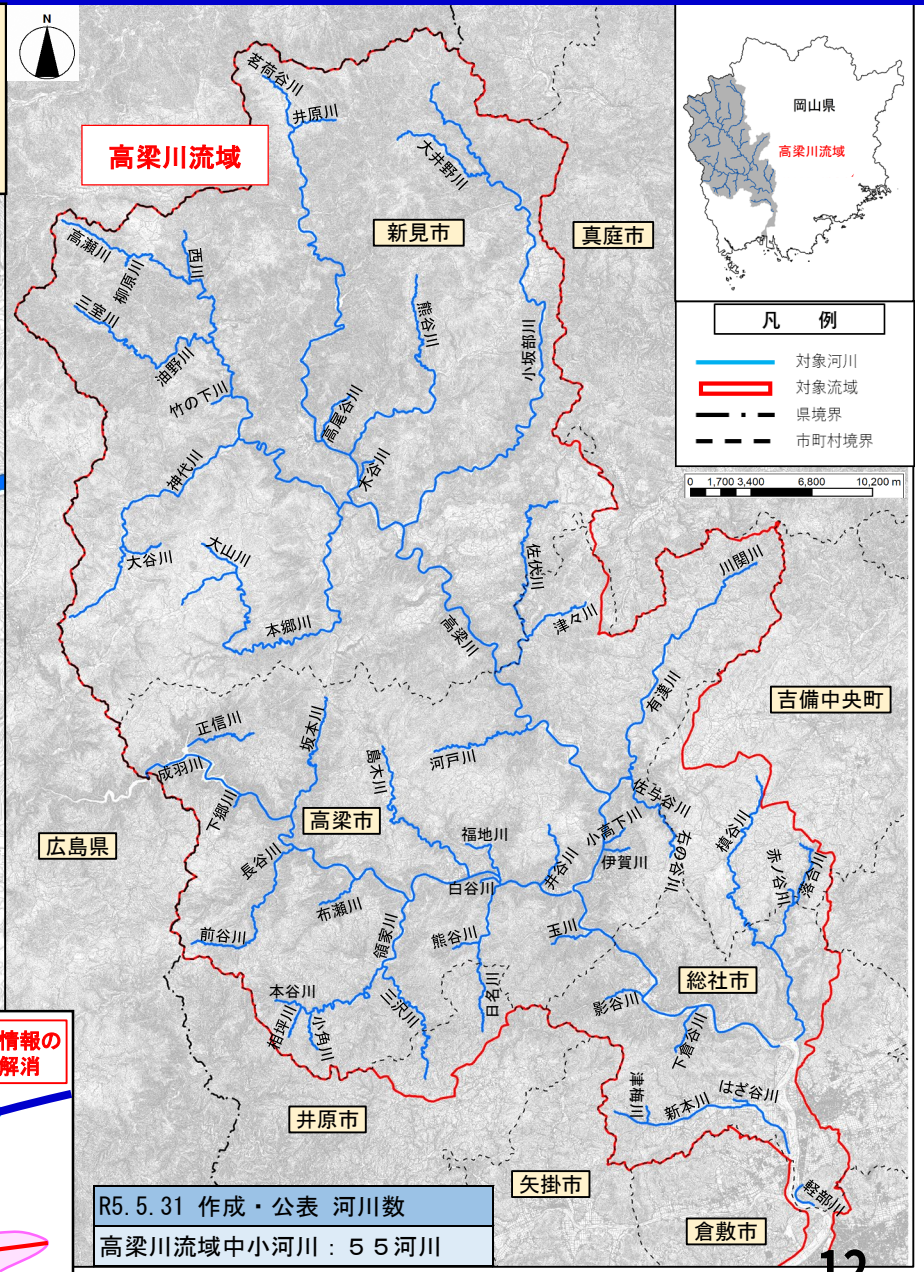
岡山県

水害リスク情報の空白域を解消するため、令和３年７月の水防法改正により、全ての中小河川が洪水浸水想定区域図作成の対象となり、昨年度公表した小田川流域に続き、高梁川流域の中小河川について、令和５年５月３１日に区域図（L1、L2）を作成・公表した。









R5.5.31 作成・公表 河川数
高梁川流域中小河川：５５河川

（２） 高梁川上流ダム群の取組状況

国土交通省

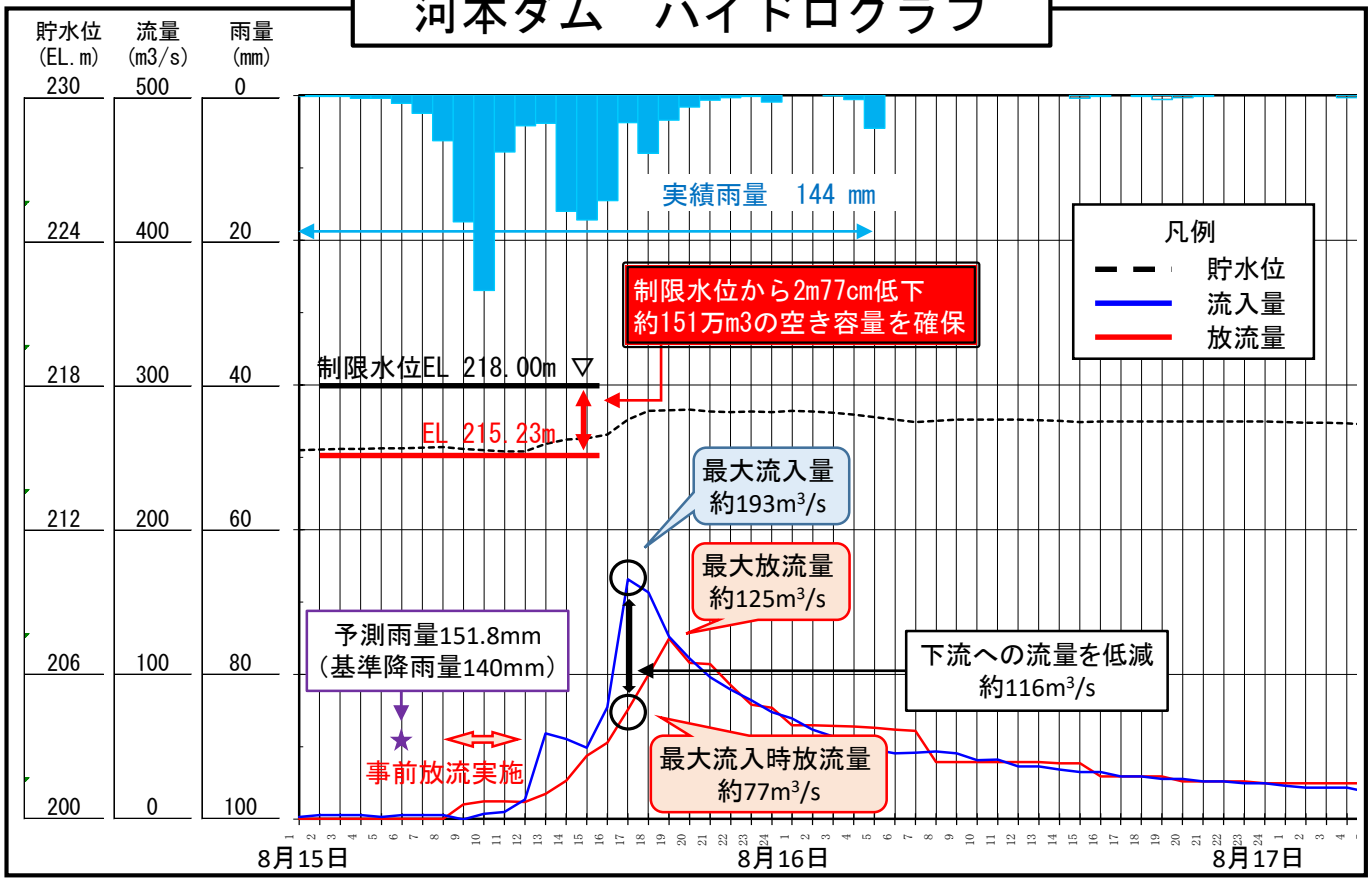
令和5年度　岡山県管理ダムの取組状況等について

岡山県

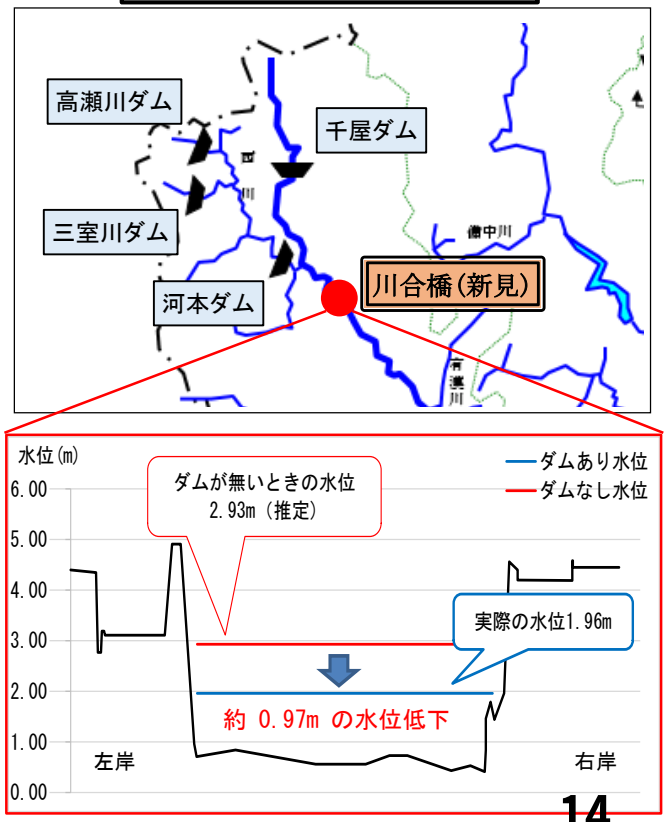
概　　況　８月１４日夜から１７日にかけて、台風第７号や線状降水帯の影響により、県北部を中心に大雨となった。
河本ダム上流域では、１５日１時の降り始めから１６日５時までに、１４４ｍｍの降雨を観測した。

ダムの状況　１５日６時に基準降雨量を超えたため、８時から事前放流に取り組み、事前放流前からの水位を下げた運用と事前放流により、１５日１１時５０分時点で、貯水位は２１５．２３ｍと制限水位より２ｍ７７ｃｍ低く、洪水を調節するための容量を、利水容量から約１５１万ｍ３確保した。

河本ダム　ハイドログラフ



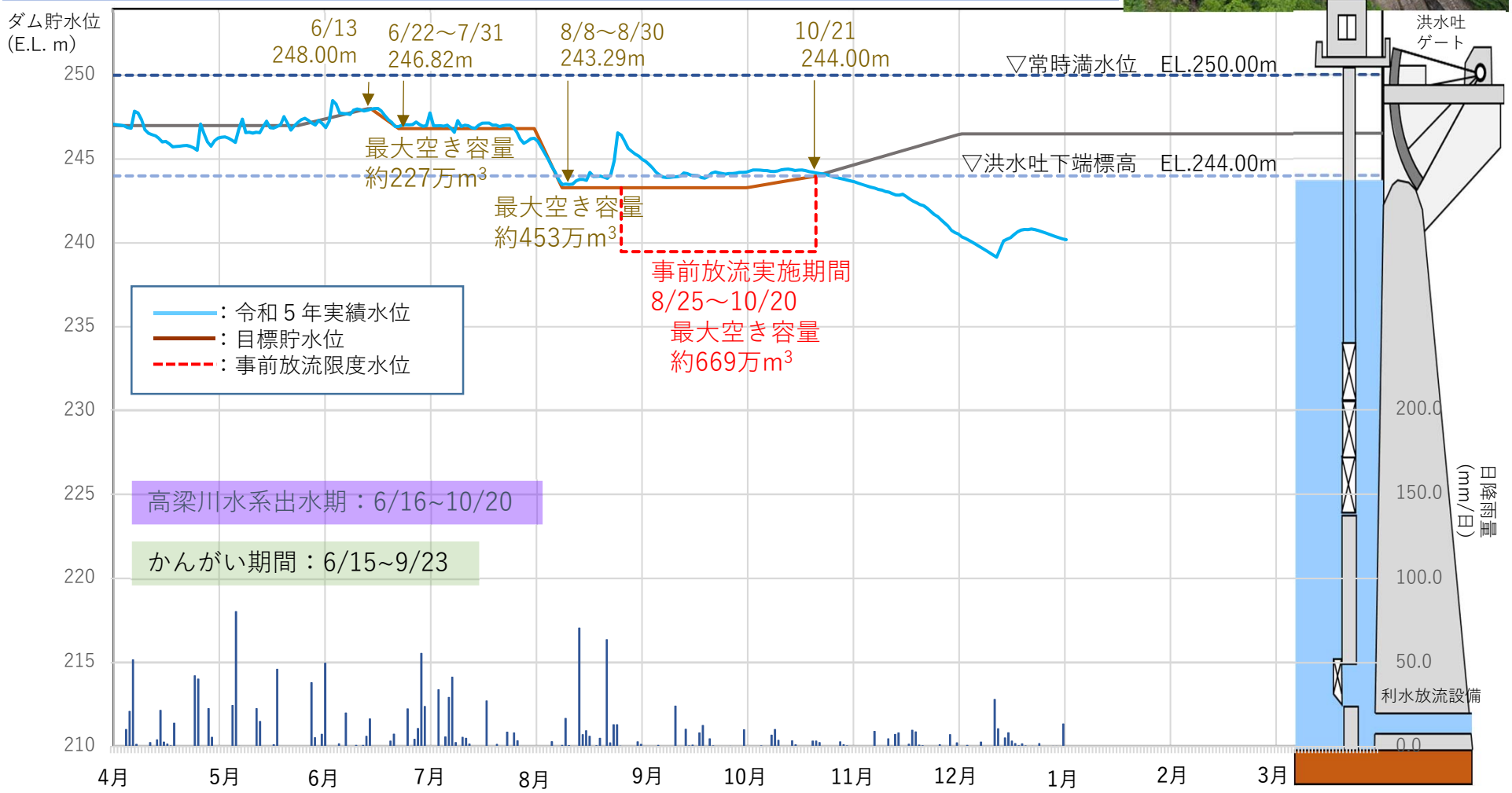
高梁川上流４ダムの水位低減効果（川合橋地点）



令和５年度　小阪部川ダムの運用状況　【中国四国農政局】

○　ダムの貯水位運用は、目標貯水位まで下げて、実施。
○　事前放流は、基準降雨量に到達しなかったため、未実施。

国営施設機能保全事業　小阪部川地区　事業期間　平成26年度～令和6年度（予定）
　小阪部川ダムは、築造以来60年以上が経過し老朽化が著しいダムの堰堤、取水施設、放流施設、管理施設の補修・更新を行います。



中国電力管理ダムの取組み状況等について【中国電力】

《2023年 新成羽川ダム事前放流の実績について》

◆ 2023年は、梅雨前線の影響により、１回の事前放流を実施。

1.事前放流実績

時点等	内　　容
降雨成因	梅雨前線
事前放流開始	６月１日　8時00分　　EL. 231.30 m(WL. 24.30 m)
事前放流終了	６月２日　0時30分(16時間30分後)
低下水位	６月２日　0時30分(16時間30分後)　EL. 225.67 m(WL. 18.67 m)　（▲5.63 m）
低下容量	17,168千m^3

2.事前放流開始決定時点の予測と実績値の比較

事前放流実績	事前放流開始決定時点の予測		実　　績（ ）内は予測との差	
	MSM雨量	予測最大流入量	累計雨量	最大流入量
６月１日	146㎜	2,400m^3/s	50㎜　（▲96㎜）	188m^3/s　（▲2,212m^3/s）

《高梁市様によるダム操作者研修ご視察について》（2023.6.15）

◆ 令和５年５月に開催された本意見交換会において、高梁市長様から弊社で実施する研修について参加したいとのご要望を受け、実現したもの。

◆ 2023年6月15日　弊社研修施設で実施した「黒鳥ダム操作者研修」について、高梁市防災復興推進課から２名ご視察いただいた。

【高梁市様ご感想】

◆ 放流設備について、二重三重の安全対策がとられていることが確認できた。

◆ 実際の災害に備えるために必要なことを、同じ機材を用いて研修できていることが素晴らしい。

◆ 高梁市に情報が提供されるまでの流れを知ることができた。

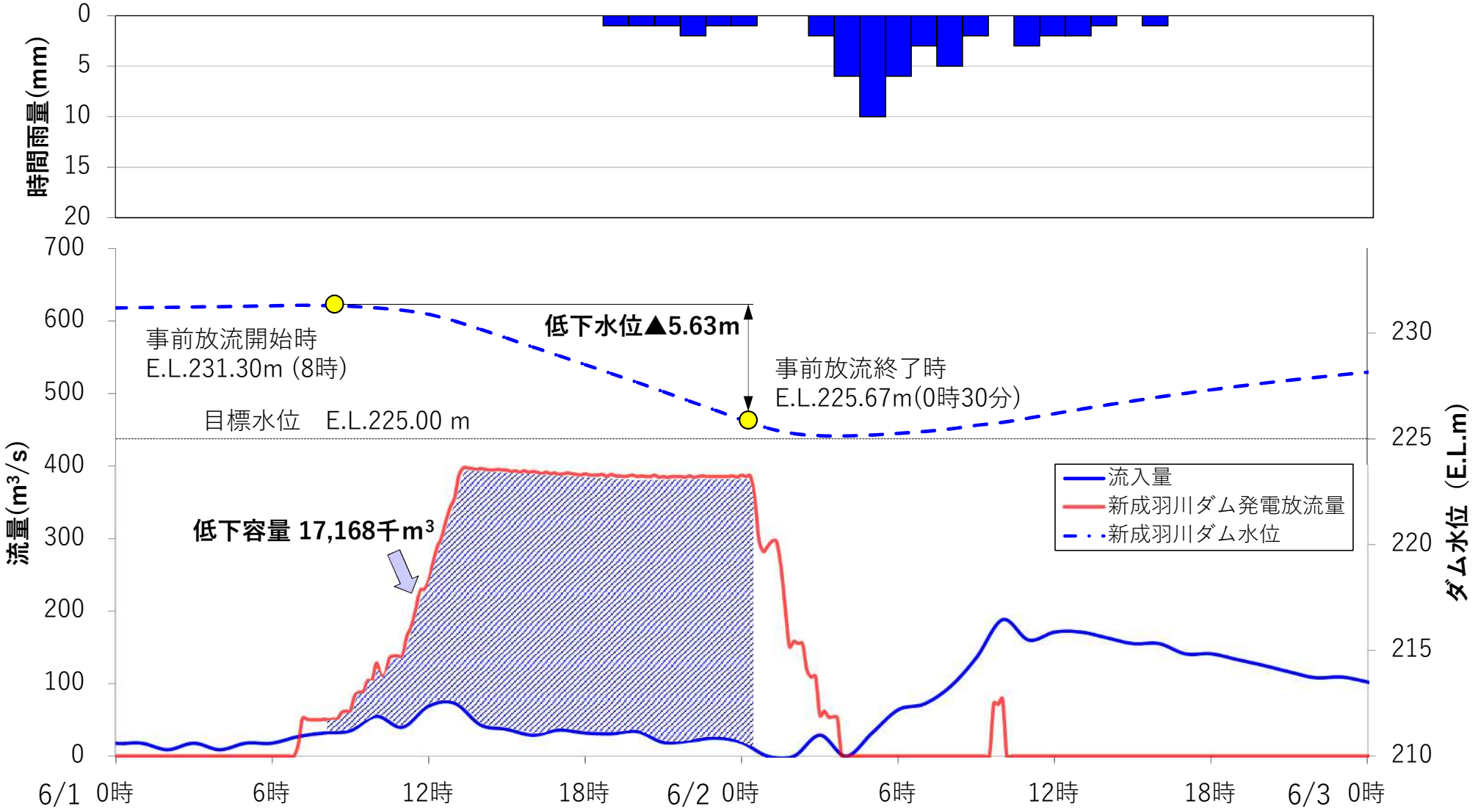
〔ダム操作者研修　ご視察状況〕

〔ダム監視制御装置〕

〔ダム操作支援装置〕

（参考）2023年6月1日　事前放流実績《出水終了まで》

- ◆ 前線による、6月1日から6月2日までの累計雨量は50ｍｍを記録した。
- ◆ 事前放流による低下水位は5.63m、低下容量は17,168千m³となり、事前放流開始(2019年)以降、最も低下させた事前放流となった。
- ◆ 6月1日の23時40分に、予測雨量および予測流入量が事前放流中止基準になったことから、2日0時30分に事前放流を中止した。



- ◆ 2023年実施の事前放流については、MSM雨量および予測最大流入量に対し、実績が大幅に少なかったことから、当初予測していた規模の出水には至らない結果となった（予測精度が課題と再認識）。

（３）その他

国土交通省

高梁川水系 冬季渇水について

国土交通省

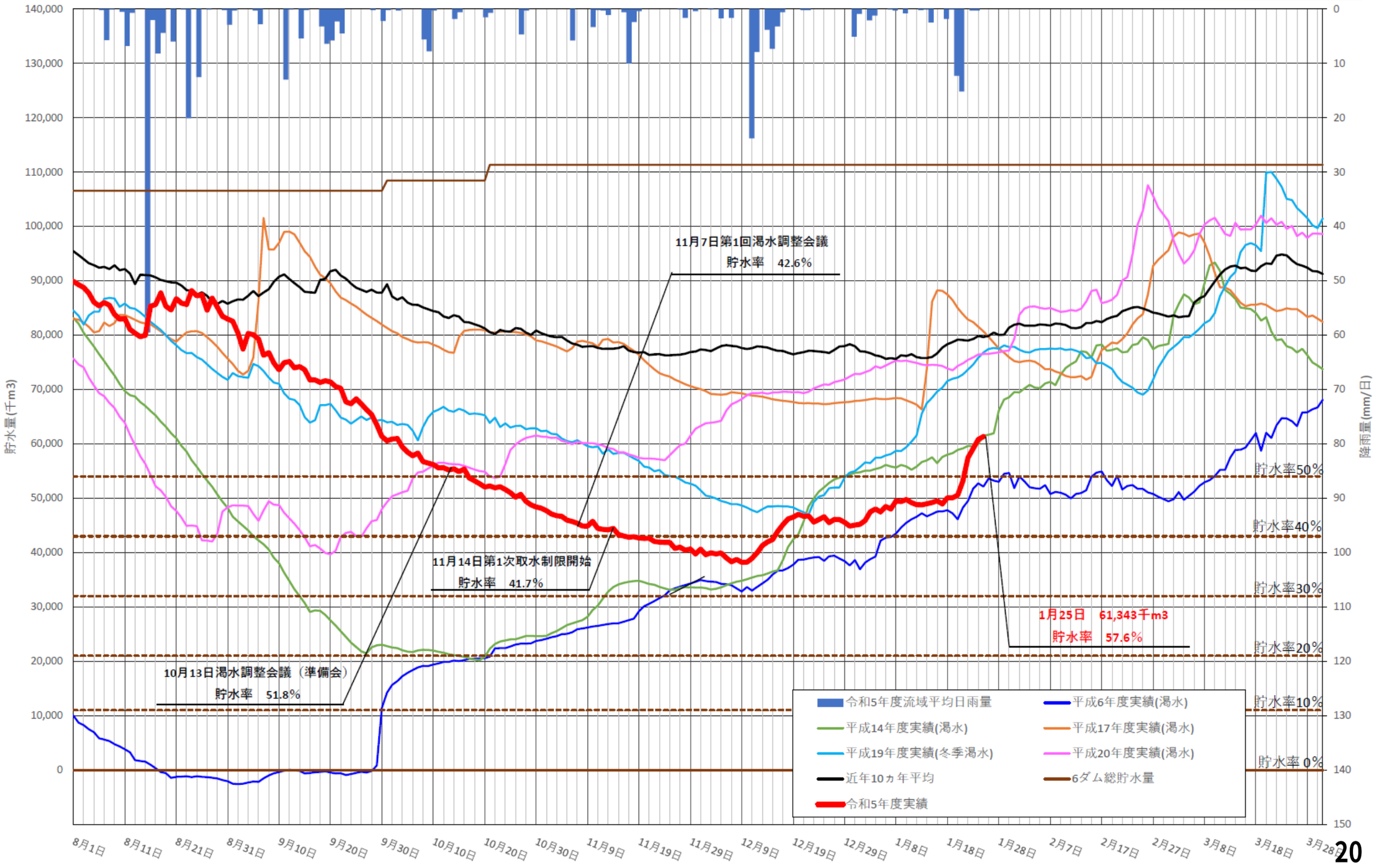
○ 高梁川水系では9月以降、平年に比べて極端に降水量の少ない状況が続き、高梁川水系の主要6ダムの貯水率が約4割程度まで減少。（高梁川流域の降水量は、過去10ヶ年平均の降水量と比べ、9月は22．5%、10月は20．3%、11月は46．4%）
○ 令和5年11月7日に高梁川水系水利用協議会（第1回渇水調整会議を開催し、関係機関の協力を得て、11月14日午前9時から第一次取水制限開始。
（実績取水量から上水2%、工水5%、農水20%（ただし、畑または酪農に使用するもの5%））

日　付	対　応　状　況	貯水率
令和5年10月13日	高梁川水系水利用協議会（渇水調整準備会）を開催	51．8%
令和5年10月20日	高梁川水系水利用協議会（第1回渇水調整会議に向けた打ち合わせ）を開催	48．9%
令和5年11月7日	高梁川水系水利用協議会（第1回渇水調整会議）を開催	42．6%
令和5年11月14日	岡山河川事務所渇水対策支部設置　第一次取水制限開始 高梁川水系主要6ダム統合運用開始	41．7%
令和5年12月7日	高梁川水系水利用協議会（第2回渇水調整会議に向けた打ち合わせ）を開催	35．9%

新成羽川ダム（中国電力）における貯水状況

高梁川水系 主要6ダム 貯水量経過

国土交通省

高梁川水系合計ダム貯水量推移図（千屋ダム、河本ダム、高瀬川ダム、三室川ダム、小阪部川ダム、新成羽川ダム）

令和6年1月25日時点資料